

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

鹿児島市
教育委員会

小学校5年
外国語科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力, 判断力, 表現力等】

日本の文化について、自分の考えや気持ちを伝えるために必要な表現の工夫を考え、相手に自分の考えや気持ちが伝わるよう工夫しながら紹介することができる。

【学びに向かう力, 人間性等】

日本の文化について、自分の考えや気持ちを伝えるために必要な表現の工夫を考え、相手に自分の考えや気持ちが伝わるよう工夫しながら紹介しようとする。

○ 工夫した点

○ Small Talkであえて情報量の少ない発表を示し、児童に考えさせることで解決したい課題を決定できるようにする。

○ これまでに学習した表現で使いそうなものを確認し、使用することで、学習内容の定着を図る。

○ 今までの授業では…

【学習課題】

ALTに日本の文化を伝えよう。

先生：日本の文化を紹介するために、
We have ~. You can ~.
という表現を使いましょう。

児童A：We have New Year's Day
in winter.

先生：アイコンタクトやジェスチャーを
使って大きな声で発表しましょう。

学習者主体で授業をデザインすると!

【学習課題】

ALTに日本のよさが伝わる紹介にするために、どのような工夫ができるだろう。

教師がSmall Talkであえて情報量の少ない発表をする

先生：イースターの紹介を聞いてもっと知りたいと思ったことはありませんか。

児童A：いつあるのかな。

児童B：どうして卵に色をぬったりうさぎを飾ったりするのかな。

児童C：delicious foodって例えばどんな食べ物だろう。

先生：ALTの先生の気持ちになって考えると伝えたい日本のよさがみつきりそうだね。

児童A：でも、ALTに伝わるように紹介しないといけないよ。

先生：ALTに日本のよさが伝わる紹介にするために、これまで学習した表現で、どのようなものが使いそうですか。

児童C：写真を見せるときに、This is ~. が使いそうだな。

児童D：We have のあとに行事を入れるとよさそう。

先生：その行事はいつあるのかな。

児童E：冬、winter!

子どもが解決の方法を見通す

先生：ロイロノートの「資料箱」に音読練習用の動画があります。教室に置いてある本で調べても良いです。先生に質問したり、友達と練習したりしても良いですよ。

子どもが課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

先生：友達や先生に発表を見てもらってアドバイスをもらいましょう。

児童A：もっとゆっくりはっきり話すといいかもね。

児童B：笑顔がいいね。内容をもっとくわしく話したらどうかな。

先生：今日はどんなことができるようになりましたか。次に生かしてみたいことやがんばりたいことはどんなことですか。

児童A：発表の最初にHello!って笑顔で言おうかな。

児童B：前よりすらすら言えるようになったよ。

児童C：Dさんは発表の最後に歌を紹介していてすごいな。

子どもが自らの学びを振り返り、次に生かす

【全体】
全体共有

【個、ペア、
グループ】
試行錯誤や協働
の選択

【ペア、グループ】
ペアやグループで
発表

【全体】
振り返り

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

日置市
教育委員会

小学校6年
社会科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

政策の内容や計画から実施までの過程，法令や予算との関わりなどについて，各種の資料で調べ，必要な情報を集め，読み取り，政治の取組を理解することができる。

【思考力，判断力，表現力等】

政策の内容や計画から実施までの過程，法令や予算との関わりなどに着目し て問いを見だし，政治の取組について考え表現することができる。

○ 工夫した点

- 「日置市子ども議会」を教材として取り入れた。
- 子どもたち一人一人が問題意識をもち，生き生きと活動するために，子どもたちにとって①身近なことであること，②自分事としてとらえることができること，③考えを交流したり深めたりする活動を取り入れること，の3つの視点を取り入れた。

今までの授業では…

【学習課題】

児童センターがつくられるまでには，どのような人たちの，どのようなはたらきがあったのでしょうか。

- 先 生：前単元では，国の政治の仕組みと選挙について学習しました。今単元では国民の願いを実現するための政治のはたらきについて学習します。今日は，児童センターができるまでの過程を確認し，学習課題を立てましょう。児童センターとはどのようなところですか。
- 児童A：赤ちゃんや子どもが遊ぶところ。子どもを連れて親が来るところ。
- 先 生：児童センターがつくられるまでには，どのような人たちの，どのような働きがあったのか調べていきましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

日置市の一員である私たちにできることは何だろう。考え，提言書をつくろう。

子供が自ら問いを発見する

先 生：この写真を見て，何か気付いたことはありませんか。

児童A：小中学生が議会に参加している。

児童B：議員さんのまねをしているのかな？

先 生：まねだけなのかな？実は・・・

児童C：えー？自分たちがつくった意見を日置市が取り組んでくれるんだね。すごいね。

児童D：私たちが考えたことが日置市に生かされるんだ。

先 生：皆さんだったらどんなことを議会で意見しますか？自分でやってみたいこと，実現できたらいいなということを考え，提言書をつくってみよう。

子供が解決の方法を見通す



【昨年度の日置市子ども議会】

先 生：まずは，私たちの身近なところから，課題や問題点が何かないか調べ，出し合い，解決策を考えてみよう。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す，協働する

児童A：私は，この伊作田小の人数が少ないので，友だちを増やすための方法を考えてみよう。

先 生：いろいろな方法があると思うけれど，実現できそうなものを選んで，日置市がなるほどと思う解決方法まで調べて取り組んでみよう。

児童B：私は，この伊作田地区は，高齢者が多いので高齢者が住みやすい町づくりを考えてみたい。

先 生：なぜ，そう考えたのかな？住みにくいところはどこかな？どうすれば解決できるかな？身近なことから考えてみよう。

児童C：何か，子どもや大人も楽しんでできるものがあると日置市に住みたくなるかもね。

児童D：そうだね。楽しく，ワクワクするものを考えよう。

先 生：一人一人がつくった提言書について，質問や意見を出し合ってみよう。そこから学んだことや考えたことをまとめてみよう。



子供が自らの学びを振り返り，次に生かす

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

いちき串木野市
教育委員会

小学校3年
理科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力、判断力、表現力等】

鏡ではね返した日光を日かげの地面にはわせることで日光の進み方を観察し、はね返した日光が当たった部分の明るさを確かめることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

反射させた日光を的に当てる活動を十分にを行い、どのように光は進むのかに着目し、話し合うことで日光の直進性と明るさの違いに気付こうとする。

○ 工夫した点

○ 教師が考えた実験・観察方法ではなく、光がどのように進むのかを確かめるために学習者自身が見通しをもって実験や観察方法を考え、グループでその方法について話し合い、実験や観察を実施させる。

○ 実験や観察を終えた後に、本時の活動を事実を基に振り返らせる。また、令和4年度実施の全国学力調査問題(問題番号3-1)に取り組みさせ、その問題を実験や観察において再現し実際に確かめることで更に思考を深める。

今までの授業では…

【学習課題】

かがみではね返した日光は、どのように進むのだろうか。



先生：かがみではね返した日光をあちらのかげにある的に当ててみよう。

児童A：あれ私の光はどこかな？

児童B：僕の光は的に当たっているよ。

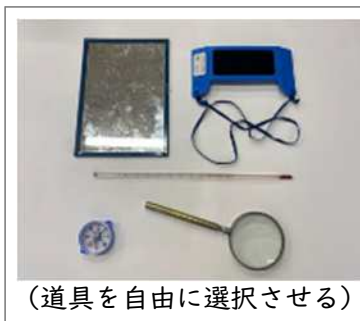
児童C：みんなの光が的に当たりました。

先生：では、これから、かがみではね返した日光の進み方を調べましょう。そのためには、はね返した日光を日かげの地面にはわせ、日光の進み方を調べます。…日光の進み方はどうなっているかな。

学習者主体で授業をデザインすると！

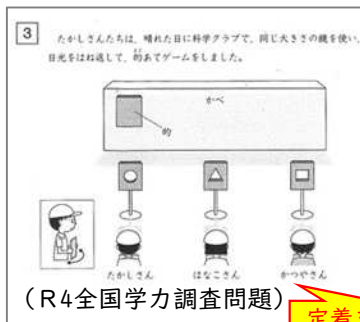
【学習課題】

かがみではね返した日光の進み方を調べるためには、どのような実験や観察を行い、どのようなことが分かるだろうか？



(道具を自由に選択させる)

(日光を日かげの地面にはわせることで日光の進み方が分かる実験方法)



(R4全国学力調査問題)

定着を確かめる

【導入・問題・実験・観察】

先生：ここにある道具を使って、実験や観察をしてかがみではね返した日光の進み方を調べたいと思います。何をどのように使えばよいかまずは一人で考えましょう。

児童が自ら実験方法を考える

児童A：かげにある的に、はね返した日光を当てればよいと思います。

先生：では、みんなで実際にその方法で日光の進み方を調べてみよう。

この方法で、日光の進み方はわかったかな？
児童B：日光は見えないので、わかりません。

先生：では、日光の進み方が見えるような実験・観察だといね。そんな方法はないかグループに分かれて考えましょう。

【まとめ・振り返り】

意見を出し合い、協働して解決する

先生：かがみではね返した日光の進み方を調べるためには、どのような実験や観察をすればよいですか？

児童A：この映像を見てください。このように、鏡ではね返した日光を日かげの地面にはわせることで日光の進み方は一直線であることが分かります(ロイロノートを活用した発表)。

【定着のための練習問題】

児童が自ら撮影した映像を見て振り返る

先生：では最後にこの問題に挑戦してみましょう。的に三角形の光を当てることができるのはだれですか？(左図のR4学調問題の図を見せ、理由まで考えて解答させる。)

児童A：日光の進み方は一直線(まっすぐ)なので、的に三角形の光を当てることができるのは、かつやさんです。

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

三島村
教育委員会

小学校3年
算数科

動画学習者主体の
授業風景Youtube



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

答えの求め方を理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

学んだことを式や図・表などを使いながら、友達にわかりやすく説明したり、ノートやワークシートにまとめたりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

自らの学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤しながら学ぼうとする。

○ 工夫した点

- 学習計画表に基づいて、子どもたちが自分のペースで学習を進める。教科書だけでなくタブレットやワークシートなど、自分で学習方法を選択できるような提案をいくつか紹介する。
- わからないところでつまづいている子どもがいたら、相談にのったり友達同士で解決できるように支援したりする。
- タブレットの有効的な使い方を事前に指導する。

今までの授業では…

【学習課題】

「～はどうしたらよいだろうか。」
 「～を調べよう。」
 「なぜ～なのだろう。」
 「～について考えよう。」

児童全員が同じ問いをもっているわけではなく、同じめあてを立ててもいいのか…

先生：これまでの学習を使って解決できないかな。

前時と違うのはどこ？
(教師主導による予想)

生徒A：前回の○○を使って解決できるのではないか。
(数名によるつぶやき)

先生：じゃあ、今日の学習は…

数名のつぶやきからめあてを作っているだけ

学習者主体で授業をデザインすると！

【単元の学習課題】

- ① 第1時で**学習計画表**を配付し、この**単元で学ぶ内容を全体で確認**する。
- ② 学習計画表を見ながら、本時で**自分が学習することを授業開始時に確認**をする。
- ③ 全体で指導すべき点は、授業の開始時に説明をする。
- ④ 教科書や計算ドリルを使いながら、**単元の内容を自分で学ぶ**。わからないことは動画を見たり友達に聞いたり、できる限り自分たちで解決する。教師は、個々の状況を観察し、相談にのったり支援を行ったりする。

【ステップ1】

- 教科書を進める。
- 学びポケットのaboard

【ステップ2】

- ロイロノート 資料箱
- 算数練習プリント
- タブレット 3年算数

【ステップ3】

- ミニ先生になってみる。
 - 自分で考えて学習する。
- (例)・自分で問題を作ってみる。
 ・練習問題をWebからさがす。
 ・先生に問題集を借りる。 など

【学び方のステップ】

【ステップ1】	【ステップ2】	【ステップ3】	【その他】
教科書を進める。 学びポケットのaboard	ロイロノート 資料箱 算数練習プリント タブレット 3年算数	ミニ先生になってみる。 自分で考えて学習する。 (例)・自分で問題を作ってみる。 ・練習問題をWebからさがす。 ・先生に問題集を借りる。 など	確認プリント まなびをいかそう
時間 10分	10分	10分	10分
1 千の位をこえる数	P6-P8	11	
2 一万の位をこえる数	P7-P8	18	
3 大きい数のしくみ 100の位と 10の位の関係	P9		
4 大きい数のしくみ 算数箱	P10 P11	19 ステップ1+2	
5 大きい数の大小 木箱	P12	19 ステップ3	
6 10倍・100倍・1000倍 の数	P13 P14	20 ステップ1+3	
7 10でわった数	P15	20 ステップ4	
8 大きい数のたし算・ひき算	P16 P17	21	
9 できるようになったこと	P18	22	
10 確認プリント まなびをいかそう	P19		

【3年生「大きい数」計画表】

- ⑤ 単元の内容を一通り理解できたら、**自分たちで発展的な学習を計画し、進めていく**。
(例：問題作り、ロイロノートの資料箱から練習問題を取り出し、問題を解く、算数アプリ、ミニ先生になる、上学年の授業動画を見て予習するなど)
- ⑥ 授業が終わったら**今日学習したことを計画表に記入して振り返り、次時はどこから学習を開始するか、どのような課題を解決したいか確認**する。

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

十島村
教育委員会

小学校6年
算数科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

比の意味や表し方、比の相当の意味を理解し、2つの数量の関係を調べて比で表したり、等しい比をつくったりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

日常の事象における数量関係に着目し、比を用いた関係の比べ方を既習の割合と関連付けてとらえることができる。

○ 工夫した点

○ 前時に宿題として記号「:」コロンについて、身の周りにあるもので実際に見たり、利用したりしているものから探すことから、高い関心を持つのではないかと考えた。

○ 児童の発言などから、性質などがあることに気付かせたり、これまでの学習との関連なども広げさせたい。

今までの授業では…

【学習課題】

数量の関係を3:2のように記号「:」を使って表そう。

先生：カルピスの作り方でカルピスの原液の量が1デシリットルで水の量が5デシリットルの割合で混ぜることを1:5と書いて、1対5と読みます。では「3:2」は何と読みますか。

児童A：3対2です。

先生：今日は、同じように記号:を使って、いろいろな数量を表してみよう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】記号「:」はどのような場面で使われているでしょうか

先生：この記号「:」は身の回りのどのような場面で使われているでしょうか。探してきましょう。

※ 前日の宿題として取り組む。

先生：昨日の課題でどのようなものがありましたか。

児童A：部屋の時計にありました。8:50とか。

児童B：料理の本の中で調味料の量を表していました。

児童C：お父さんの焼酎のグラスに3:7とか書いてありました。

先生：Aさんの8:50という表現でこの記号は何を表していますか。

生徒：時刻の何時と何分を分ける意味で使われているね。

児童C：じゃあ、グラスの3:7は何を表しているのかな。

解決した課題の共有

視点①：子供が自ら問いを発見する

先生：それでは、3:7は何を表しているのか予想してみましょう。

児童B：タブレットを使って調べたり、ロイロノートの資料箱を見たり、友達と相談してみてもいいですか？

個に応じた見通しの支援

視点②：子供が課題解決の方法を見通す

【問題】ホットケーキを作るのに小麦粉と砂糖が10:2の比になるように使います。同じ味のホットケーキを作るのに小麦粉が100gあるとき、砂糖は何g必要でしょうか。

個での試行錯誤や協働の選択

先生：この問題では、どのようなことが分かっているでしょうか。

児童A：小麦粉が10から100に10倍しているから、砂糖も10倍の20gにすればいいと思います。

児童B：小麦粉の量が2倍になれば、砂糖の量も2倍になるね。

児童C：それって比例の関係だね。

先生：面白いところに気が付きましたね。

比に関係することをもっと調べていきましょう。

新しい問いの発見

視点④：子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

指宿市
教育委員会

小学校6年
理科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

てこが水平につり合うときのきまりについて、実験用てこなどを正しく扱いながら調べ、てこをかたむけるはたらきは力の大きさと支点からの距離の積で求められることを理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

てこが水平につり合うときのきまりについて、実験結果を基に考察し、より妥当な考えをつくりだし、表現することができる。

○ 工夫した点

- なかなか水平につり合わないシーソーの場面を提示し、どうやったらつり合うかを考えさせることから、学習課題を設定し、グループで調べる活動を通して、てこが水平につり合うときのきまりを見つける活動を行う。
- 活動の中で、実験用てこの片方のうでにおもりを2か所つけたグループを取り上げ、学習した内容を使って計算でつり合う方法を見つけさせるようにする。(発展的内容)

今までの授業では…

【学習課題】

てこが水平につり合うときには、どのようなきまりがあるのだろうか。

先生：支点と力点の距離が長かったり、支点と作用点の距離が短かったりすると、てこを使って楽に持ち上げることができますね。ちょうど水平になるには何かきまりがあるのでしょうか。

児童A：支点から離れるように指を少しずつずらすと、だんだん力は小さくなるね。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

50kgのはなこさんと30kgのたろうくんが、シーソーでつり合うにはどうしたらよいでしょうか？

子供が自ら問いを発見する

先生：50kgのはなこさんと30kgのたろうくんがシーソーをしているんだけど、なかなかつり合なくて、けんかしているよ。どうすればいいのかな。

児童A：はなこさんが重いんだから前に行けばいいんじゃない？

児童B：軽いたろうくんが後ろにいけばきっと水平になるよ。

児童C：前の時間に支点からの距離が関係していたから、今度も何か関係しているんじゃないかな。

児童D：水平につり合うときのきまりがあるのかな。



先生：実験用てこという道具がありますよ。片方のうでに下げのおもりは変えないで調べてみましょう。

(条件制御) 使い方は、いろいろな方法で調べていますよ。ワークシートには二次元コードもあります。参考にしてみてください。

子供が解決の方法を見通す

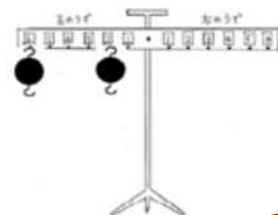
子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

児童A：おもりを下げている番号のところと、おもりの重さをかけ算したときの答えが同じだとつり合うね。

児童B：おもりの重さと支点からの距離をかけた答えが同じだったら水平になるよ。

先生：みんなが見つけた式でもとめた数が「てこをかたむけるはたらき」を表します。

児童C：私たちのグループは、片方のうでの2か所に10gずつおもりをつけてみました。



児童D：2か所につけても支点からの距離とおもりの重さをかけて、その数を合わせた数が分かればつり合いました。

先生：きまりさえ分かれば、何か所つけても水平につり合わせるができますね。

それでは、今日の学習を「わ・で・か・い・も」でふり返りましょう。

(わ：わかったこと で：できたこと か：かんがえたこと い：いかしたいこと も：もっと知りたいこと)

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

南九州市
教育委員会

小学6年生
算数科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

角柱や円柱の体積は、(底面積)×(高さ)で求められることを理解して、体積を求めることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

直方体の体積の求め方から、角柱や円柱の体積の求積公式を考えることができる。

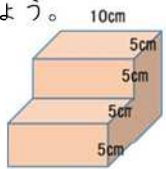
○ 工夫した点

- 学習進行表を作成し、自ら学び進めることができるようにする。
- 学習進行表に単元で目指す個人の目標や、学習の進め方、学習の振り返りの枠を設け記入させ、進行状況の把握に努める。
- 板書に、ノートの記事例を示すことで、自らノートを用いて学習に取り組めるようにする。
- 一人一人の実態に合わせたスピードで学習を進められるよう、支援が必要な児童一人一人に個別の対応を行う。

今までの授業では…

【学習課題】

四角柱が組み合わされた立体の体積を求めましょう。

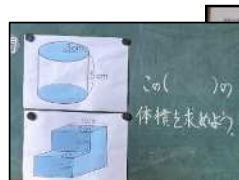


先生：今日は四角柱を組み合わせた立体の体積を求めます。これまでの学習で学んだことや考えたことを生かすと、体積を求められそうですね。どのように求めたらよいと思いますか？

児童A：「底面積×高さ」で求めたらよいと思います。

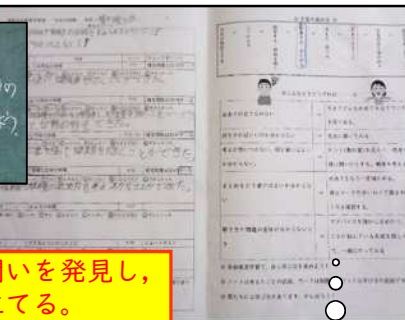
先生：本当にそれで求められるか確かめるために、他の求め方をさがしてみよう。

学習者主体で授業をデザインすると！



板書に示す
学習課題

①子供が自ら問いを発見し、
学習の計画を立てる。



学習進行表

④子供が自らの学びを振り返り、次に生かす



学習の振り返り

複雑な立体の体積も、
底面積×高さの式で求められるのだろうか。



発展問題

早く終わったから、
難しい問題に挑戦しよう！

5年生で学習した立体を2つに分ける方法で解けないかな。

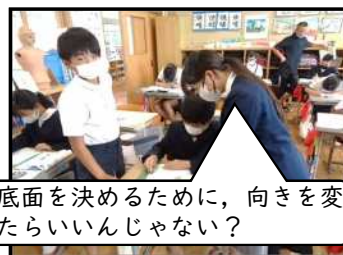


学習の見通しをもつ

②子供が解決の方法を見通す



③子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返し、必要なときは友達と協働する



底面を決めるために、向きを変えたらいいんじゃない？

解決のための教え合い

タブレットのドリルで確かめよう。



タブレットの活用

どう式を立てたらよいかわかりません…



個別指導

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

阿久根市
教育委員会

小学校6年
算数科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

全体の量と2つの数量の比の関係を調べ、比例配分の意味と計算の仕方を理解することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

比の性質を活用して、課題解決のために粘り強く取り組もうとする。

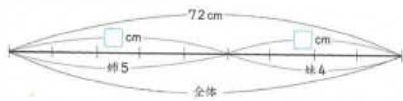
○ 工夫した点

- 本単元の目標である比例配分の意味と計算に焦点を絞り、問題文を具体操作ができる内容に変更し、実際に具体物を操作しながら等しい比を確認し、主体的な活動ができるようにする。
- グループごとに考えたことをタブレットに入力し、互いの考えをすぐに確認し合えるようにする。
- ラスト10分の振り返りの時間で、今日学んだこと、できるようになったこと、次にやってみたいこと、さらに知りたいこと等を確認することで、次時に向けた学習の意欲を高めるようにする。

今までの授業では…

【学習課題】

長さ72cmのリボンを、姉と妹で、長さの比が5:4になるように分けます。それぞれ何cmになりますか。



先生：リボンを5:4に分けるには、どう考えればよいでしょうか。

児童A：線分図にかいて考えるといいと思います。

児童B：姉と妹で5:4なので、全体は9で考えたらできると思います。

先生：分からない数をxとして考えてみましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

6年生15人をA班とB班で、人数が3:2になるように分けます。それぞれ何人になるでしょうか。

〔グループ〕
試行錯誤や協働の選択

先生：実際にブロックを使って、15人を3:2に分けてみよう。

【個別最適な学び・協働的な学び】

児童A：まず、3個と2個に分けてみよう。
児童B：15は、3個と2個のグループが3組できたよ。

〔全体〕
解決した課題の共有

先生：これまでの学習と違うところがありますか。
児童A：これまでは、種類の違うものを比に表していたけれど、同じものを比で分けています。

〔個〕
見通しの支援

先生：等しい比や計算で求める方法を考えてみましょう。

先生：考えがまとまったら、ロイロノートの提出箱に入れてください。わからないときには、友達の見えを見て参考にしましょう。

〔全体〕
解決した課題の共有

【対話活動の充実・協働的な学び】

先生：グループごとに考えを発表してください。
児童A：比を足して全体を5と考えると、計算ができます。
児童B：Xを使った比で考えられます。

〔個〕
試行錯誤

先生：自分の考えや友達の見えを参考にしながら、自分が求めやすい方法で挑戦しましょう。

72cmのリボンを姉と妹で5:4に分けます。それぞれ何cmになりますか。

先生：今日の学習の振り返りをします。今日学んだことや分かったこと、もっと知りたいことなどを入力して提出箱に提出しましょう。

〔個〕
学びの振り返り

【振り返り・自己調整力】

児童A：かけ算を使って、全体を何等分しているのかを考えて計算する。
児童B：全体を何等分しているのかは、比を足せば分かる。

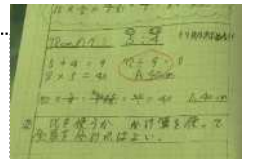


児童が試行錯誤を繰り返す。協働する。



児童が自ら問いを発見する。

児童が解決の方法を見通す。



①分かったこと、考えたこと

11月2日(日)

- ・ブロックや比かけ算などを使って計算すればいいということが分かった。
- ・全体を、何等分しているのか、比から考えるということに気をつける。

②できるようになったこと、学んだこと

11月2日(日)

- ・全体を何等分しているのかは、比を足せば、分かる。
- ・比を足ったり、かけ算を使えば、全体を分けることができる。

児童が自らの学びを振り返り、次に生かす。

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

さつま町
教育委員会

小学校2年
算数科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力、判断力、表現力等】

乗法九九を想起し、場の状況を考えながら、乗法九九を生活場面で活用することができる。

【学びに向かう力、人間性等】

乗法九九を活用して、きまりを見つけたり、工夫したりして、身近な問題に生かそうとする。

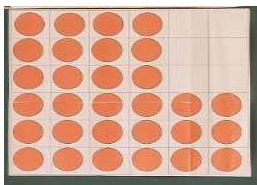
○ 工夫した点

- 一人一人が取り組みやすい方法で活動できるように、解決するための方法を選択させて見通しをもたせる。【選択】
- それぞれの考え方をホワイトボードに書かせて、可視化させ、似た考え方を同士で分類し、共通点を見出させるようにする。

今までの授業では…

【学習課題】

チョコレートはぜんぶで何こありますか。



先 生：これまでかけ算九九を学習してきました。全部の数を求めるには、どうしたらいいですか。

児童A：数えたらいい。

児童B：かけ算九九を使う。

児童C：まとまりを作る。

先 生：そうですね。では、まとまりを作って考えてみましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習問題】

ぜんぶの数をかんたんにもとめるには、どのようにすればよいだろうか。

子供が自ら問いを発見する

先 生：チョコレートの数は、何個あるでしょう。いつもと何が違うかな。

児童A：えっ、簡単に求められない。

児童B：同じ数のまとまりがないよ。

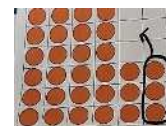
子供が解決の方法を見通す

先 生：簡単に求めるにはどうしたらいいかな。

児童C：前の時間で習ったようにまとまりで考えたらどうかな。

児童D：ブロックを使って考えたらどうだろう。

先 生：どんな方法ならできるか、じゃあ20分考えてみよう。ブロックや図、ホワイトボードは、ヒントコーナーに置いてあります。



児童E：6のまとまりが4個と、3のまとまりが2個あるよ。

児童F：児童G：大きな6のまとまりが6個あるから、そこから引くといいかな。

先 生：自分の考えを黒板に貼ったら、似た考えがないか整理してごらん。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

児童H：6×5の式で求められます。

児童I：なんで、そんな式になるんですか。

児童J：はしにある3個を動かすと、6のまとまりが5個できるから、これまでと同じようにできます。

先 生：今日の学習を振り返って気付いたことを発表してごらん。

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

児童K：まとまりで分けたり、動かしたりして考えると九九を使うことができます。

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

伊佐市
教育委員会

小学校3年
算数



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力、判断力、表現力等】

小数でわるわり算の計算の仕方を、わる数を整数に直せば整数でわるわり算と同様に計算できることに気付いたり、問題場面を基にわる数を整数に直す方法を考えたりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

小数でわるわり算の計算の仕方を、既習事項をもとに考えようとする。

○ 工夫した点

- 本時の学習のポイントを明確にし、「どうして」「なんで」といった問いから、子供たちが図や式などを使って確かめたり、説明したりする必然性をもたせるために、予想される誤答をもとに学習問題を焦点化した。
- 図がかけなかったり、式が思い付かなかったりする子も主体的に学習に取り組むことができるように、問題場面に合った数直線図を選択させたり、数直線と式をつなげたりする活動を設定したりなどして、それを選んだ理由を基に方法について考えさせていった。

今までの授業では…

【学習課題】

0.8Lで240円のジュースの、1Lあたりのねだんは何円ですか。

先生：どんな式で答えが出せるかな。考えてみましょう。

生徒A：どんな方法で考えればいいのか。

先生：掛け算かな、割り算かな。

先生：(図を示しながら)この問題は割り算で計算します。では、計算してみましょう。

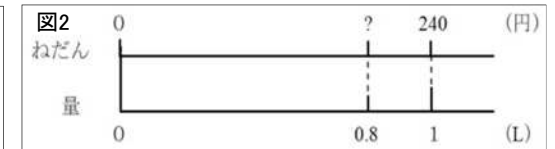
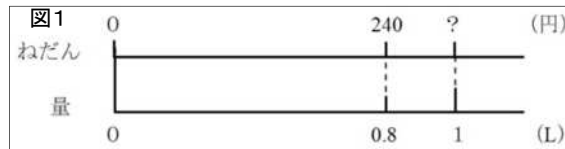
学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

0.8Lで240円のジュースの、1Lあたりのねだんは何円ですか。

子供が解決の方法を見通す

先生：学習場面に合う図は、どっちかな。



児童A：図2じゃないかな。先生：どうしてそう思うの。

児童A：だって、図1は0.8Lで240円になっていて、図2は1Lで240円だから図2だよ。

児童B：図1は、かけ算の時の図じゃないかな。わり算のときとの違いはどこだろう。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

先生：ロイロノートに図を送るので、図に書き込んで考えたり説明したりしてみよう。書き込んだ図は提出箱に送ってください。

先生：計算の仕方が思い付かない人は、提出箱を共有しているので、友達のを考えてみてください。図を見て分からないことがあったら、その友達に尋ねてみよう。

先生：それぞれの考えと合う式はどれかでしょう。

児童A：〇〇さんの考え方はLをdLに直しているね。これは10倍しているのと同じだから・・・

$240 \div 0.8 = 300$	$240 \div 0.8 = 300$
$\downarrow \times 10 \quad \uparrow \times 10$	$\downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10$
$240 \div 8 = 30$	$2400 \div 8 = 300$

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

先生：今日の学習を振り返って、小数のかけ算と同じところや違うところについて話し合しましょう。

児童A：整数に直して計算しているのは同じだね。図にするとかけ算とわり算の違いがはっきりしたね。

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

湧水町
教育委員会

小学校6年
算数科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

日常の事象における数量の関係に着目して、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かすことができる。

○ 工夫した点

主体的に課題に取り組むために、算数科の特性を生かして、「現実の世界」を意識し、日常生活との関連が深い学習課題を設定した。

今までの授業では…

【学習課題】

乳酸飲料水を作るのに、水120mLとこい乳酸飲料30mLを混ぜます。乳酸飲料が60mLあるとき、同じこさの乳酸飲料水を作るには、水を何mL用意したらよいですか。

【学習のめあて】

等しい比の性質を使って問題を解こう。

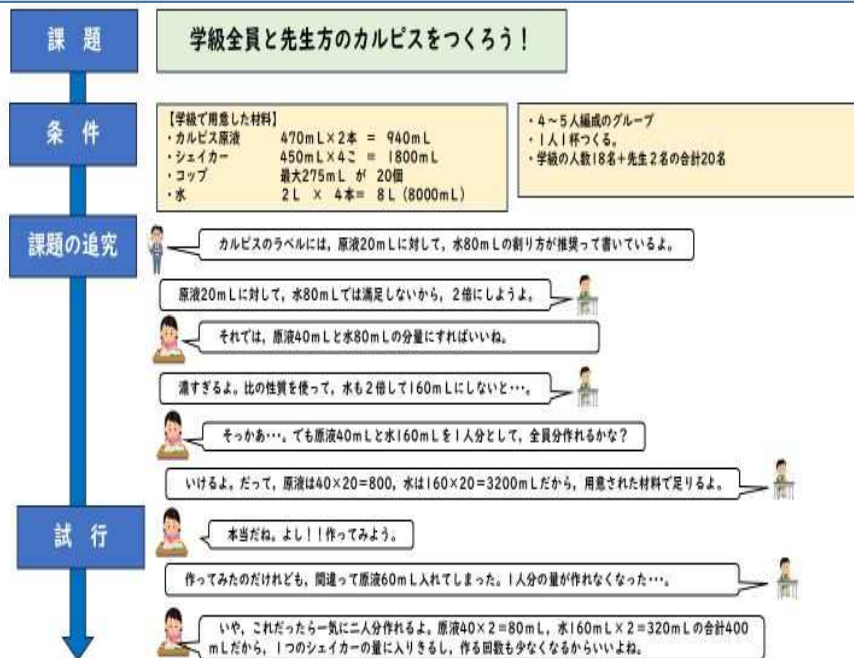
先生：水の量と濃い飲料水の量を、どのような関係にすればよいでしょうか。

児童：水と濃い飲料水を、120:30と同じ割合にすればよいと思います。

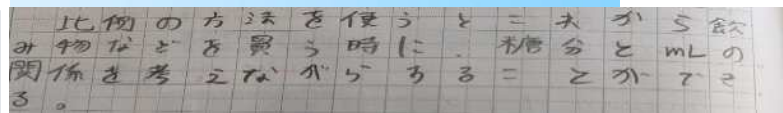
児童：水の量を求めたいので、それをxmLにして、考えてみました。

学習者主体で授業をデザインすると！

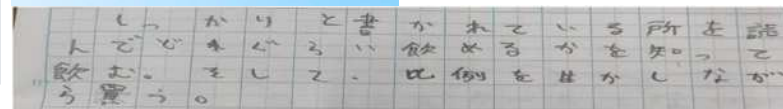
- 1 題材 比とその利用
- 2 本時の目標 与えられた条件の中で、比の性質を利用してカルピスをつることができる。



日常生活の場面で比例の考え方を活用して処理するよさ



算数の学習を自分事として捉える



振り返り

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

曾於市
教育委員会

小学校5年
算数科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

三角形の内角の和は180度であることや多角形の内角の和は三角形に分けて求められることを理解し、多角形の内角の和を求めることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

三角形の内角の和を帰納的に見だし、三角形の内角の和を基に多角形の内角の和を考え、図や式を用いて演繹的にまとめることができる。

○ 工夫した点

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返し協働する

○ より発展的な課題を提示することによって、学ぶ意欲を高めるとともに、振り返りを通して、自己の学びのよさについて理解を深めるようにする。

○ より発展的な課題を解決するために、既習事項を拡張したり、現在の解決方法を一般化したりする活動に協働的に取り組む場面をつくる。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返し協働する

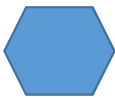
今までの授業では…

【学習課題】

六角形の6つの角の大きさの和は、何度でしょう。



180度



?

先生：どうやって調べればいいと思いますか。

児童A：三角形の3つの角の大きさの和は180度なので、それが何個分かで考えればいいと思います。

先生：では、三角形何個分か、図にかいて調べましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

百二角形の内角の和は、何度でしょう。

子供が自ら問いを発見する

先生：図にかくのも難しいですが、もし、百二角形があったら、内角の和は何度になるでしょう。

児童A：図にかけないなら求められません。

児童B：なんで百二？中途半端だな。

児童C：図にかかなくても求められる方法がありますか？

先生：きっと、この学習が終わるころにはみなさんは考え付くようになっていていると思います。

児童D：それなら早くやりたいです。

先生：じゃあ、現時点では、何角形なら求められそうですか？

児童E：六角形なら求められます。

児童F：七角形や八角形もできそうです。

先生：それでは、みなさんが「できそう」と思っている方法で求めてください。分らない人は、同じグループの友達に「ここ、どうすればいい？」とか求め終わった人は「何度になった？」と聞き合ってください。

子供が解決の方法を見通す

先生：六角形は、どうやって求めましたか？

*児童が図にかいて、六角形、七角形、八角形の内角の和の求め方を説明

先生：では、説明してくれた方法で百二角形の内角の和を求められそうですか？

児童G：今のやり方は、どうしても図をかかないとできないので、今の方法では、できません。

先生：今の方法を超える方法ってあるのかな？

児童H：調べた結果を表にまとめてもいいですか？

先生：どうして表にまとめたいと思いましたか？

児童G：何か、きまりのようなものが見つかりそうだからです。

児童I：そうだ！きまりがある！

先生：どうやら、今の方法を超える方法がありそうですね。グループのみんなで力を合わせて、今の方法を超えてください。

先生：何かよい方法を見つめましたか？

*児童がn角形とできる三角形の数(n-2)について説明

児童B：そうか。だから、百角形ではなく、百二角形だったんだ。

児童J：先生、百二角形の内角の和を求めていいですか？

児童K：やった、できた。簡単だ。

児童L：本当だ。きまりを使えば、暗算で求めることができる。

児童M：今日も、こんなにすごい問題ができるようになった。諦めないでよかった。

児童N：きまりに気付けたのがよかった。

児童O：表にまとめたから、きまりに気付くことができたんだな。

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

志布志市
教育委員会

小学校2年
国語科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力、判断力、表現力等】

かえるくん（登場人物）のしたことや言葉から、行動の理由や表情などを想像し、読み取ったことをもとに音読の仕方を考えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

単元の目標に向かって音読の仕方を工夫し、役になりきって音読劇に取り組もうとする。

○ 工夫した点

- 「役になりきって音読劇をしよう！」というゴールに向かう目的を意識できるように、学習計画の確認と前時の板書を活用した振り返る活動を毎時間行った。
- 音読劇の台本として活用するワークシートに、登場人物の気持ちが分かる言葉や行動に線を引く（着目）活動を取り入れ、「～と書いてあるから、～という気持ちだと思います。」と着目した言葉と想像した気持ちが分かるように発表する活動を取り入れた。

今までの授業では…

【学習課題】

お手紙を書くかえるくんの気持ちを読み取って、音読の工夫を考えよう。

先生：それでは、今回は第2場面の学習をします。誰が何をしているところですか。

児童A：かえるくんががまくんにお手紙を書いているところです。

先生：それでは、そのときのかえるくんの気持ちを考えて、2の場面をどのように読めばいいか考えていきましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

お手紙を書くかえるくんの気持ちがつたわるには、どう音読したらよいだろうか。



先生：役になりきって音読劇をするには、どんな学習をしていけばよいでしょうか。

児童A：読み方を工夫する！

児童B：登場人物の気持ちが分かればいいと思う。

子供が自ら問いを発見する

先生：そうですね。では、誰のどんな気持ちを読み取ればいいのか確認するために、まずはこの場面を音読してみましょう。

(児童全員で音読)
子どもが主体的かつ学習の見通しをもてるように、めあてを立てる。

【読み取り後は、音読記号を使って、読み方の工夫を考える】

先生：第1時で見た音読劇のビデオをもう一度、見てみよう。
(単元の導入時に活用したモデルとなる音読劇を再度、鑑賞する。)

児童A：あわてている様子分かるように読むには、・・・

子供が解決方法を見通す（再確認する）

先生：どうしてここは「速く」読むのかな。

児童A：かえるくんががまくんのために急いでいる気持ちが伝わるためにです。

先生：かえるくんの気持ちが伝わっているか、近くの友達と読み合ってみてもいいですよ。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

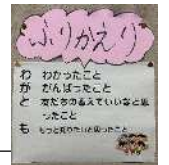
【振り返り】

先生：音読劇に一步近づけましたか。それでは、学習の振り返りをしましょう。

児童A：かえるくんの急いでいる様子分かるように、読めました。

先生：学習を振り返って、みんなで音読しましょう。

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす



(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

大崎町
教育委員会

小学校6年
算数科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力、判断力、表現力等】

図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりしながら、対象の概念を捉えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

図形の対称について学んだことを生活や学習に生かそうとする。

○ 工夫した点

- 自由進度学習を取り入れ、児童に「点对称の作図」の問題を中心に、自分のスピードで問題を解かせていく。個・ペアなど、自力解決や相談での解決のどちらの利点も示し、学習形態も児童に選択させる。
- 一人一人の進み具合を教師が把握するために、1時間ごとに進度のチェック表に記入させる。解き終わった問題は、ノート写真を撮り、ロイロノートを使って教師に提出させる。

今までの授業では…

【学習課題】

点对称の中心は、どうすれば求められるだろうか。

▶ 右の図は、点对称な図形です。次の問題に答えましょう。

- ① 対称の中心を書きましょう。
- ② どのように対称の中心を求めたかを説明しましょう。



先生： 点对称の図形の中心は、どのようにすれば、見つめられるでしょうか。

先生： 一つの方法を見つけられた人は、ほかの方法を考えましょう。

一人調べ 5分
グループ 15分
発表 10分

すぐに解けて、説明もできました。もっと、難しい問題に挑戦したいなあ。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

つりあいのとれた形を作図するとき、どのような性質を利用してかいたのか、友達に説明しましょう。



一人で考える

友達と考える

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返し協働する

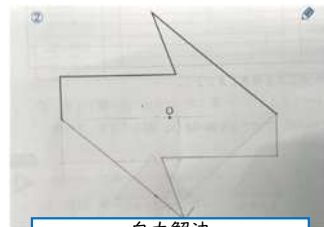
学習者主体の授業	学習1	学習2	学習3	学習4	学習5	学習6	学習7	学習8
① 対称の中心を求めよう	一人で 高橋君							
② 対称の中心を求めよう	一人で 高橋君	一人で 高橋君						
③ 対称の中心を求めよう	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君					
④ 対称の中心を求めよう	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君				
⑤ 対称の中心を求めよう	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君			
⑥ 対称の中心を求めよう	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君		
⑦ 対称の中心を求めよう	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	
⑧ 対称の中心を求めよう	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君	一人で 高橋君

先生：
基本問題を解いたら、解きたい問題から順に、自分のペースで解いていきましょう。
一人で考えても、友達に相談しても構いません。



【チェックカード】

- 1時間で1問以上は進もう！
- 解いた問題は、どのような性質を利用したのかをノートに書いて、ロイロノートで提出。
- 自分の立てた計画より遅れたときは、家でやってもいいよ。
- スモールステップで、教科の問題や計算ドリルなどの問題に取り組みましょう。
同じ考え方で解ける問題を見つけると、効率がいいね。



自力解決

利用した図形の性質を説明しましょう。

対称な2つの点を結ぶ直線を、その中点を通り、対称な中心から対称な2つの点までの長さを等しくして作ります。

利用した性質の説明



振り返り

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

錦江町
教育委員会

小学校4年
算数科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

長方形・正方形の面積の公式について理解し、必要な長さを測ったり、図形を求めやすい形に分けたり、引いたり、移動したりすれば求められることを理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

学習した面積の公式に着目して、L字型や凹型などの図形の面積の求め方を考え、表現することができる。

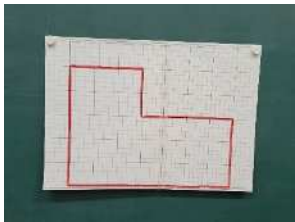
○ 工夫した点

- L字型の図形の面積を工作用紙で作成し、切ったり、動かしたり、タブレットを利用したりして、図形の面積を求める時間を十分に作る。(解決方法はいくつでも考えてよい)
- 友達の考えをタブレットで確認しながら、自分が見つけられなかった図形の面積の求め方を知り、考えを広めるようにする。
- 既習の公式を利用して求めることができる図形を作成し、友達同士で問題を出し合い、答え合わせまで行うようにする。

今までの授業では…

【学習課題】

次の図形の面積を求めるには、どうすればよいだろうか。



先生：長方形や正方形の面積を求める公式は何でしたか。公式を利用して、図形の面積を求めてみましょう。

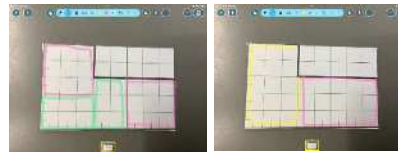
児童A：上と下、右と左で切ると求められます。

先生：式と答えを書いてみましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

L字型の図形の面積の求め方はいくつあるだろうか。



児童が自ら問いを発見する



児童が解決の方法を見通す

先生：何の形に見えますか？

児童A：L字形に見えます。

先生：L字型の面積ってもとめられるのかな。

児童B：この形、長方形に見えるな。

児童C：正方形もあるよ。

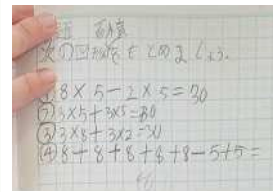
先生：色々な求め方ができそうですね。今日の学習のゴールはどうしますか。

児童D：色々な方法で図形の面積を求めたいです。

先生：工作用紙や資料箱にL字形を準備しています。色々な解決方法を見つけましょう。

先生：面積を求めるために、工作用紙、タブレットのどちらを使ってもよいですよ。友達同士の考えもロイロノートで共有できるようにしています。

児童が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する



児童A：上と下で切って分けたら、図形の面積を求めることができました。

児童B：左と右で分けて長方形で、求めることもできるよ。

児童C：大きい長方形から小さい長方形を引くこともできるよ。

先生：ある部分を動かして求めることもできそうですね。

児童D：見つけた。こんな方法もあるのか。

児童E：練習問題でやってみたいです。

児童F：先生、自分たちでも問題を作りたいです。

先生：次の時間に取り組んでみましょう。今日の学習をしっかり振り返った後に、どんな問題を作るか考えてみましょう。

児童が自らの学びを振り返り、次に生かす

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

南大隅町
教育委員会

小学校5・6年
国語(複式)



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる。

【思考力, 判断力, 表現力等】

互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い, 考えを広げたりまとめたりすることができる。

○ 工夫した点

- 5・6年生同じ議題で一緒に話し合うことで, 学習内容の系統性が明らかになるとともに, より一層異学年同士が協力したり, 学びあったりする複式学級のよさを生かすことができる。
- 練習の話し合いの様子をビデオで撮影し, 次時にそれを見ながらよりよい話し合い活動にしていくためのブラッシュアップを行う。

今までの授業では…

【学習課題: 5年】

たがいの立場を明確にして, 話し合おう。

【学習課題: 6年】

目的や条件に応じて, 計画的に話し合おう。

※ 5・6年別々に話し合いを行う。

先生: 話し合いを行うためには, どのような順序で進めていけばよいか。

児童A: (教科書に書いてある順序を発表)

先生: では, その順序で話し合いの準備をしていきましょう。

学習者主体で授業をデザインすると!

【学習課題】

前時の話し合いは, どこを改善するとさらにより話し合いになるだろうか?

先生: 前時では, 「学級みんなが本好きになるために, どんな取組をすればよいか」について話し合いました。今日は, どんな学習をするのでしょうか。

児童: (学習計画表を見てから) どうすればもっとよい話し合いになるか考えます。

児童A: 前時は, 議題の中に目的が入っている5年生の議題だね。

児童B: 5年生の議題だけど, 6年生は6年生の話し合いの目的を意識しないとけないね。

先生: いいところに気付きましたね。ではもう一度各学年の単元のめあてとゴールを確認しましょう。

先生: 今日の授業の中で, 自分自身が身に付けたいことをめあてとして書きましょう。

先生: では, 前時の話し合いの様子動画を見て, それぞれの学年の視点ごと, よかったところと改善した方がよいところをワークシートに記入しましょう。

児童A: 具体的な例を挙げていて分かりやすい。

児童B: 共通点に着目し, 発表の時に理由もしっかり言えている。

児童C: 相手の意見を受け止めず, まず否定から入っている人がいた。

児童D: 意見を広げる話し合いとまとめる話し合いがあいまい。

児童E: 話の内容が少しずれるときがある。

先生: 各自ワークシートに書いたことを基に, グループで話し合っ

てまとめてみましょう。

グループA: 質問の仕方を考えて, あまり発表できない人が発表できるようにする。

グループB: 話の内容がずれていると思ったときは注意する。ポイントを書いて, ずれないように注意する。

広げる話し合いをする前に, ゴールを決めておく。

出た意見を整理してから, まとめる話し合いに入る。

先生: それでは, 今日の学習を振り返りながら, 分かったこと, 次に生かしたいこと, 「なるほど」と思ったこと, 疑問に思ったことをまとめておきましょう。

子供が自ら問いを発見する

子供が解決の方法を見通す



子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す, 協働する



子供が自らの学びを振り返り, 次に生かす

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

西之表市
教育委員会

小学校6年
国語科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力、判断力、表現力等】

「やまなし」を読んで、作者の人生や作品の中の表現、対比から、作者がこめた思いについて、自分の考えをまとめることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

表現や構成などに着目して作品の世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとする。

○ 工夫した点

- これまでの学習を基に自分の考えを整理させ、対話活動を通して友達の考えと比較したり、質問したりする活動を設定し、思考ツール等により考えを可視化することで、自分の考えを再構築できるようにする。
- 振り返りの視点を示した上で本時を振り返らせ、新しい学びや学びの変容を伝え合わせることで互いに共有できるようにする。

今までの授業では…

【学習課題】 作者がこの作品にこめた思いについてまとめよう。

先生：「やまなし」は、「五月」と「十二月」の二つの場面で構成されていて、この二つを対比しながら読んできました。「五月」に上から来たものは何でしたか。

児童A：かわせみです。

先生：そうですね。では、「十二月」に上から来たものは何でしたか。

児童B：やまなしです。

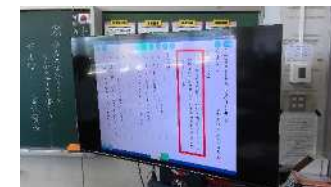
先生：今日は、宮沢賢治が「やまなし」にこめた思いについて考えましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】 作者がこの作品にこめた思いについてまとめよう。

先生：これまで、初発の感想から生まれた問いを基に学習計画を作成し、作者の人生、作品の中の表現、対比に注目しながら学習を進めてきました。今日はどんなことを学習してみたいですか。

児童A：作品にこめた作者の思いを考えます。



子供が自ら問いを発見する

先生：自分の考えを書くときに大切なことは根拠を明確にすることでしたね。これまでの学習でワークシートに書きためた付箋を参考に見てみてください。

〔個〕
見通しの支援

子供が解決の方法を見通す



〔グループ〕
対話を通しての考えを比較し、自分の考えを再構築する

先生：友達の考えで共感したり、新たに気付いたりしたことは、メモに残して、自分の考えに生かせるようにしましょう。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す(協働する)



児童B：読み手の想像力が働くから・・・
児童C：イーハトーブもつなげているかもね。
児童B：やまなしの内容の考察をしたときに、オリジナルの言葉をいっぱい入れている。
児童C：オリジナル…かぶかぶ、クラムボン、オノマトペとか。表現とイーハトーブもつなげることで、いろんな想像力が増すということだね。

〔全体〕
振り返り



先生：学習初めの「やまなし」のイメージとこれまで学習してきたイメージは、こんなに違いますね。皆さんの見方・考え方が変わってきたということですね。

先生：なぜ、見方・考え方が変わってきたんだろうね。この学習を通して、どんなことが学べたのだろう。

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす



(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

中種子町
教育委員会

小学校4年
理科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあることを理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想を発想し、得られた結果を基に考察し表現することができる。

○ 工夫した点

- 単元当初、晴天時と雨天時の校庭の動画をもとに、雨水の行方について気付いたことや疑問に思ったことを話し合い、「流れる」「たまる」「しみ込む」「かわく」など調べたいことを焦点化し、問題を見いだせるようにする。
- 学びを振り返り、更なる習熟を図るために、駐車場に砂利が敷いてある画像を提示し、駐車場にされている工夫を理由と共に説明する場面を設け生活経験と結びつけて理解を深める。

今までの授業では…

【学習課題】

土やすなのつぶの大きさによって水のしみこみ方にちがいのがあるのだろうか。



砂場の砂：大きい
校庭の土：小さい

先生：校庭の土と砂場の砂はどちらがつぶが大きいですか。
 児童A：砂場の方が大きい。
 先生：水のしみこみ方に違いがあると思いますか。
 児童B：つぶが大きいから砂場の方が速いと思う。
 先生：では、つぶの大きさによって水のしみこみ方にちがいのがあるか調べていきましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習問題】

土やすなのつぶが大きいほど水ははやくしみこむのだろうか。



子供が自ら問いを発見する

先生：このことを調べるにはどんな実験をすればよいですか。
 児童A：校庭の土と砂場の砂に水を入れてどちらが早くしみこむかを調べればよい。
 先生：土や砂、水の量はどちらが早いかわからないからグループで話し合いましょう。
 児童B：全部同じ量にしないと行かないね。
 児童C：どうして。
 児童D：だって、量が違ったら、正しい結果が出ないよ。
 先生：量が違ったらどうなるの。
 児童E：量が違うとくらべられないね。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

児童A：同時に入れるよ。セーの。
 児童B：やっぱり砂場の方がはやいね。
 児童C：つぶが大きいとつぶの間にすきまができるんだらうね。
 先生：どんな結果になりましたか。
 児童A：砂場が速かった。
 先生：このことから何がわかりますか。
 児童B：つぶが大きいほど水がしみこむのが早い。
 先生：では、駐車場の写真を見てみましょう。どんな工夫がされていますか。
 児童C：水たまりができてくなくなっている。



子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

先生：この写真を見て何か気付くことはありますか。
 児童A：校庭には水たまりがあるけど、砂場には水たまりがない。
 児童B：砂場は水がしみこんで、校庭は水がしみこまなかった。
 先生：どうして。
 児童C：土と砂は違うから。
 先生：土と砂は何が違うの。
 児童D：種類。色。石。大きさ..
 児童E：調べてみよう。
 〈校庭の土と砂場の砂を虫めがねで観察する。〉
 児童A：校庭の土は、つぶが小さいね。色もちがうよ。
 児童B：触るとざらざらするよ。砂場の砂はつぶが大きいよ。つぶの大きさも違いがあるね。
 児童C：砂場には水たまりがなかったからつぶが大きいと水が速くしみこむのかな。
 児童D：つぶが大きいとすきまができてさうだね。
 先生：問題ができましたね。

子供が解決の方法を見通す

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

南種子町
教育委員会

小学校5年
社会科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力, 判断力, 表現力等】

自動車の輸出や原油の輸入に関する資料から読み取ったことをもとに、日本と外国との貿易関係についての学習問題をつくり、表現することができる。

【学びに向かう力, 人間性等】

日本と外国との貿易関係について予想し、それをもとに学習計画を立て、主体的に追求しようとする。

○ 工夫した点

- 複数の資料から、自動車の主な輸出国名や台数、また原油を輸入に依存している現状を読み取らせていく。その際、地図や地球儀を活用し各国との距離や方位などを確かめながら、児童が関心や疑問をもてるように支援していく。

今までの授業では…

【学習課題】

日本で生産された自動車は、どこへ輸出されているのだろうか。

- 先生：日本の自動車は、外国に輸出されています。どのような国へ運ばれているか調べましょう。
- 児童A：台数はアメリカ合衆国が最も多いです。オーストラリアや中国も多い。ヨーロッパやアラビア半島の国々にも輸出していますね。
- 先生：では、自動車の輸出の現状から日本と世界各国との結びつきに着目して学習問題をつくりましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

2つの資料を見て、分かることや疑問に思うことはどんなことだろう。



2 【資料①：日本の自動車の主な輸出先】



【資料②：国内で使う原油にしめる輸入の割合, 原油タンクとタンカー】

- 先生：この2つの資料は、何の資料でしょう。
- 児童A：日本の自動車の主な輸出先の資料と国内で使う原油にしめる輸入の割合の資料です。
- 先生：さて、この資料を見て何か気付いたことや疑問に思ったことはありませんか。
(一人調べ：ノートにまとめる)
みなさんで気付いたことを交流しましょう。

子供が自ら問いを発見する

- 児童B：アメリカ合衆国への輸出量が一番多いです。
- 児童C：いろいろな国に日本の車が輸出されていることが分かります。
- 児童A：日本で使われている原油はほぼ全て輸入されたものなんだ。
- 先生：では、疑問に思ったことも交流してみましょう。
- 児童B：どうしてアメリカ合衆国への車の輸出がこんなに多いのかな。
- 児童C：車の他に、日本が外国に輸出しているものは他にどんなものがあるのかな。
- 児童D：原油は、99.7%が輸入されているようだけど、どこの国から輸入しているのかな。
- 児童A：他にも外国から輸入しているものはたくさんありそうな気がする。

- 先生：では、これからみなさんは、どんなことについて調べたいですか。
- 児童A：日本が輸入しているものや輸出しているものについて調べたいです。
- 先生：そうですね。この輸入や輸出のように国と国との間で品物売り買いすることを「貿易」といいます。では、これからの学習で、日本が行っている貿易について調べ、学習していきましょう。

子供が解決の方法を見通す

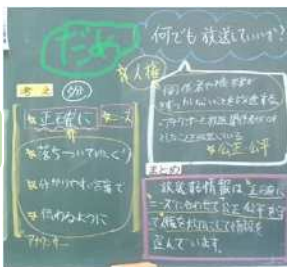
(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

大和村
教育委員会

まとめまで
子供たちが板書

小学校5年
教科 社会



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力、判断力、表現力等】

ニュース番組で放送する情報の決め方について、問いを見だし、資料の情報を読み取って自分の考えもち、考えを交流して、情報を発信するときに大切なことについて考えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

発信される情報について学習したことを社会生活に生かそうとする。

○ 工夫した点

- 学習課題について調べるための資料や考えを表現するツールを複数準備し、子供自身で選択できるようにする。
- 考えを共有ノートで交流し、大切なことやキーワードを明確にする。
明確になったキーワードなどをもとに、子供たち自身でまとめを行うことができるようにする。
- 「正確であれば何でも放送してよいか」を考えさせ、更に情報を伝え方について理解を深め、情報を受け取る側として大切にすることを考えさせる。

今までの授業では…

【学習課題】

放送局は、集めた情報をどのようにまとめ、ニュース番組にして放送しているのでしょうか。

先生：放送局がどのようにしてニュース番組をつくっているか調べてきました。前の時間は何について調べたかな。

児童A：取材について調べました。

先生：じゃあ今日は、編集と放送について調べましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

放送する情報を、どのように決めて、放送しているのだろうか。

子供が解決の方法を見通す

先生：（解決のための学習の見通しを子供と話し合いながら、学習活動や時間を板書する。）

児童：編集している人や番組を放送する人の話が聞きたいね。

先生：教科書や資料集に編集や放送に携わる人の話がありますよ。ロイロノートの資料箱にも資料や動画があります。

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

児童A：もう話し合ってもいいかな。調べて考えたことを共有ノートにかきましょう。

児童B：「分かりやすく、正確に」が大事だね。

児童C：役立つ情報が多いね。視聴者のニーズに応えることも大切にしているよ。

先生：正確で役立つ情報だったら放送しているんだね。

児童D：なんでも放送していいのかな。

（再度、資料を調べる）

児童D：関係者や被害者が傷つかないことを考えて放送しているよ。

児童B：放送関係者とアナウンサーの両方がOKしたことを放送するようにしているんだね。

児童A：公正・公平というキーワードが書かれていたよ。

（考えの比較や検討を行い、キーワードなどを明確にしながら、ガイドを中心に全体のまとめを行う。）

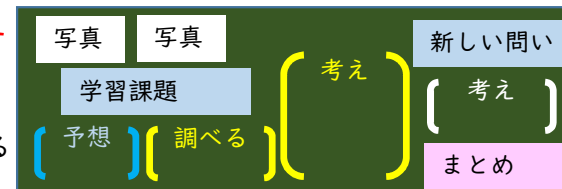
児童A：「正確」「役立つ」「視聴者のニーズ」「公正・公平」がキーワードだね。

児童B：私は、「人権」という言葉も入れたいな。

先生：今日の学習を振り返って、学んだことやこれから生かしたいことをまとめましょう。（板書を写真に撮り、ロイロノートで自分の振り返りをするなど→）

子供が自ら問いを発見する

先生：多くの取材スタッフから大量の情報が集まるね。
児童A：放送する情報をどうやって決めているのかな。



子供が自らの学びを振り返り、次に生かす



(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

瀬戸内町
教育委員会

小学校3・4年
複式指導 算数



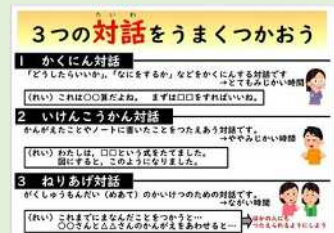
○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【思考力、判断力、表現力等】

- ・ 3年生 (2, 3位数) × (1位数) の計算の仕方を、具体物や図、式を用いて表現して考えることができる。
- ・ 4年生 広さを数値化する方法、広さに応じた面積の単位や求め方を考えたり、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考えたりすることができる。

○ 工夫した点

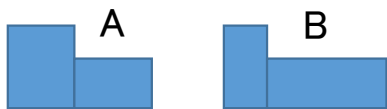
- 各学年の発達段階に応じて、学習の手引きを活用し、児童が主体的に学習を進めるガイドを育成する。
- 「かくにん対話」「いけんこうかん対話」「ねりあげ対話」の3つの対話・話型を用いて、対話活動を充実させることで、児童の考えを深める。



今までの授業では…

【4年生学習課題】

面積の大きさを比較するには、どのようにすればよいだろうか。



- 先生：今日は、図形Aと図形Bの面積が、どちらが大きいかを考えたいと思います。みなさん、図形Aと図形B、どちらが大きいと思いますか。
- 児童A：図形Aの方が大きいと思います。
- 先生：どうして図形Aの方が大きいと思いましたか。
- 児童A：見た感じが大きいと思ったからです。
- 先生：それぞれの辺の長さを計って調べてみましょう。

学習者主体で授業をデザインすると！

【4年生学習課題】

諸鈍小学校の校舎の面積と伊子茂小学校の面積では、どちらが大きいだろうか。

「ずらし」の時間

【3年生学習課題】

繰り上がりのある計算は、どのようにすればよいだろうか。

子供が自ら学習を見通す

ガイド：はじめに、前の時間学習した、3ケタのかけ算について、学習します。まず、復習問題に取り組みます。始めてください。

児童C：できました。答え合わせをします。

先生：はい、答え合わせまでできましたね。しっかりできていますね。では、この問題は どうでしょう。「かくにん対話」をしてください。

児童D：あ、繰り上がりがある計算ですね。

児童E：ちょっと難しくなってる。

先生：そうですね。繰り上がりがあるので、筆算で解くときは、どのようにすればよいでしょうか。まず自分で考えてみよう。

子供が課題解決するまで 試行錯誤を繰り返し、協働する

子供が課題解決するまで試行錯誤を繰り返し、協働する

子供が自ら対話したくなる問い

先生：先日訪問した、伊子茂小学校の校舎と、諸鈍小学校の校舎は、どちらの校舎が大きいと思いますか。

児童A：クラスの数が同じだから、そんなに変わらない気がします。

児童B：でも、ちょっと諸鈍が大きい気がします。

先生：2つの校舎の大きさをどうやって調べたら良いと思いますか。

児童A：長さを調べたら良いと思います。

児童B：また伊子茂小学校まで行かないと行けないよ。

先生：それは大変だね。そこで、インターネットの地図を利用して、同じ縮尺の諸鈍小学校と伊子茂小学校の地図を準備しました。

先生：これを使って面積を比べるためには、どのようにしたらよいですか。各自で考えてください。

児童A：面積を求めて比べてみたら良いね。

児童B：1cm²がいくつ入るかを調べてみたら良いね。

先生：どの図形でもできる方法は、他にありませんか。「いけんこうかん対話」をしてください。



児童が対話の中で思考を深めている場面

教師の見届け・支援

- ・ 児童が自ら考える場面や、児童間での対話する場面を確保する。
- ・ 教師が児童の思考を妨げるような不必要な説明や発問をしない。



教師が児童の対話や学習活動を見届けている場面

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

天城町
教育委員会

小学校4年
教科 社会科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

奄美群島日本復帰に向けた人々の取組について、各種資料を基に必要な事実を読み取り、人々が日本復帰に向けて苦心しながらも一丸となって取り組んだことを理解することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

人々の取組に着目して、問いを見だし、日本復帰運動の様子や人々の願いについて考え、表現することができる。

○ 工夫した点

- 児童の学習への興味・関心を高めるために、本小単元の地域の発展に尽くした先人の学習内容について、島外の事象ではなく、奄美群島の日本復帰運動に取り組んだ人々を取り扱う。
- 興味に応じて学習を進めたり、学び合いの必要性をもたせたりするために、追究する資料を選択できるように複数準備する。
- 児童が日本復帰運動の様子や人々の願いについて事実を総合的に考えて自らの考えを構築することができるようにするために、考えの理由を説明する活動を設定する。

今までの授業では…

1 これまでの学習内容について

【学習内容】先人の働き→【追究する事象】野井倉台地の開墾（志布志市）

徳之島に住む児童にとって、身近に感じにくい内容で、興味・関心をもちにくく、主体的に追究する姿を表出させることが難しかった。

2 これまでのめあての設定方法について

児童に問題意識をひきだすことができずに、教師がめあてを提案していた。

先生：日本復帰に向けて奄美群島の人々がどのようなことをしたのかについて調べていきましょう。めあては、どう書けばいいですか。

児童：日本復帰に向けて、奄美群島の人々はどのようなことをしたのだろうかです。

学習者主体で授業をデザインすると！

【追究する事象】奄美群島の日本復帰運動に取り組んだ人々（奄美群島の郷土教材）

【学習課題】

なぜ、奄美群島は日本復帰を果たすことができたのだろうか。

先生：この年表から読み取れることは何かな。
 児童A：1946年に奄美群島がアメリカに支配された。
 児童B：1952年に日本復帰を果たしている。
 先生：前時の学習で、統治下でアメリカ軍に反発するとどうなると学習したかな。

児童C：逮捕される。児童B：牢屋に入れられる。
 先生：そうだったね。では、ここまでの事実で何か疑問はありますか。

児童D：なぜ、日本復帰をすることができたのかな。
 児童E：どうやって日本復帰したのかな。
 先生：どうしてなのか予想をしてみよう。
 児童F：戦争をして勝ったからじゃないかな。
 児童A：人々が復帰運動を頑張ったからじゃないかな。
 先生：じゃあ何に着目して調べていけばよさそうかな。
 児童B：人々の取り組んだことを調べればいいよ。

先生：人々の取り組む様子について、これらの資料を基に事実を調べましょう。
1人でするか友達とするか、また、どの資料から調べるかは自分で決めていいよ。
 （資料を基に調べる活動）

先生：全ての資料で調べることができましたか。
 児童A：いいえ、終わりませんでした。児童B：1つ終わらなかったけれど、他は終わりました。
 先生：では、友達と獲得した事実を交流してみましょう。
 （事実共有の学び合い）

先生：では、これらの事実をまとめると、人々が何をしたから、日本復帰を果たすことができたと言えそうかな。自分の考えをノートに記述し、そのように考えた根拠となる事実に印をつけよう。

児童C：力を合わせて復帰運動に取り組んだからだと考えます。根拠は、署名した人々がほぼ全員だったことや皆で断食運動に取り組んだ事実です。
 児童D：復帰運動に平和的に取り組んだからだと思います。根拠は、暴力にうったえることはしなかったことや何度も要望書を出した事実です。
 児童E：人々があきらめず復帰運動に取り組んだからだと考えます。根拠は～。
 先生：それでは、今日の学習を振り返りながら、今日学んだこと、次に生かしてみたいこと、もっと調べてみたいことをまとめておきましょう。

子供が自ら問いを発見する

年	出来事
1946年(77年前)	奄美群島がアメリカにせんりよ うされる
1953年(70年前)	奄美群島が日本にふっきする

子供が解決の方法を見通す

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

伊仙町
教育委員会

小学校6年
理科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

- 月の表面の様子を調べ、月の特徴を理解することができる。
- 日没直後の月の形と位置について調べ、月の形は日によって変わることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

- モデル実験を通して、月の形が日によって変わって見える理由を考え、表現することができる。

○ 工夫した点

- 単元内自由進度学習を行うことで、主体的に学習に取り組む態度や学習を自己調整する力を育む。
- 個別と協働の指導過程を設定した授業デザインを行うことで、学習に対話や深まりをもたせる。

今までの授業では・・・

- 同じ内容を同じ方法で、同じペースを進める。
- 受け身で、教師の指示を待つ児童の姿。

先生:次は、教科書の〇〇ページを見て調べましょう。

児童A:先生、たくさん見つけました。次は何ですか。

児童B:先生、調べ終わりました。何をすればいいですか。

先生:ちょっと待っててね。

学習者主体で授業をデザインすると!

★ 教師はファシリテーター

① 決める⇒②めあてを立てる⇒③予想する【個】

先生:学習計画表を確認して、学習することを決めましょう。 子供が自ら課題を設定する。

学習内容	ワークシート	パワーポイント	キャラクター
1 ガイダンス 単元のめあて		① Navima① □ 5-1-1 □ 5-1-2	① プリント □ 5-1-3 □ 5-1-4
2 月の表面の様子を調べる。 【観察①】	5-2		□ 5-1-3 □ 5-1-4
3 日没直後の月の形と位置の変化 について調べる 【観察②】	5-3	① q-board② □ 月の見え方	① プリント
4 月の形が変わって見える理由を調べる。 【実験①】	5-4	① r-board③ □ 月の形の変化 □ 月の形と位置の変化	□ 5-1-3 □ 5-1-4
5	5-5	① Navima④ □ 5-2-1 □ 5-2-2 □ 5-2-3 □ 5-2-4	
6 単元のまとめ			

【学習計画表】

児童A:月の表面が気になる。月の表面の様子について学習しようかな。

児童B:昨日の月は半分が光っていたな。月の見え方について調べようかな。

先生:ロイロノートの提出箱に、自分で立てためあてを写真で提出しましょう。 友達のためあては見るができますよ。

児童C:Aさんとめあてが似ているな。

子供が協働的な学びを見通す。

④ 調べる・考える【個】

子供が自身の課題解決まで試行錯誤を繰り返す。

先生:何を使って調べてもいいですよ。 ワークシートの二次元コードを読み取ると、資料にアクセスできますよ。 実験は隣の部屋でできます。

児童B:実験が必要だ。隣の部屋で実験をしに行こう。



【検証をする児童】

先生:そろそろ、めあてを提出箱で確認して、友達と学習のまとめをつくりましょう。

児童A:Cさんとめあてが似ている。一緒に話し合ってみよう。

⑥ ふりかえる【個】

子供が学習内容・事項を整理、確認する。

先生:「まとめチェック」プリントで学習内容を確認しましょう。

児童A:クレーターという言葉が抜けていた。自分たちのまとめに付け加えておこう。

児童B:やっぱり、月の位置関係が関係しているんだね。

先生:振り返りカードで今日の学習を振り返りましょう。

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす。

(様式2)

「学習者主体の授業」実践例

知名町
教育委員会

小学校3年
体育科



○ 本実践例の授業で育成をめざす資質・能力

【知識及び技能】

回転系や技巧系の基本的な技をすることができる（前転や後転、かべ倒立）。

【思考力、判断力、表現力等】

自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。

○ 工夫した点

- 学習のゴールを「自分たちが選んだ歌に合わせてグループ演技をしよう」に設定した。「グループで演技をする」という意識で活動に取り組ませた。
- グループ演技を課題として設定することで、得意な児童は苦手な児童に分かりやすく教える方法を考えたり、苦手な児童は自分のできる技を歌のどの部分で表現するのかを考えたりすることができた。

今までの授業では…

【学習課題】

自分のできる技を見つけ、できない技をできるように練習しよう。

授業者：できない技を練習
しましょう。

児童A：ぼくは習った技が
すべてできるけど、
何をすればいいん
だろう。

児童B：どの技もできない。
もうしたくない。

学習者主体で授業をデザインすると！

【学習課題】

自分たちが選んだ歌に合わせ
てグループ演技をしよう。



【演技の構成をグループで考える児童の様子】



【動画を見て、改善案を考える児童の様子】



【見る人が楽しめるよう
工夫した演技を練習する児童の様子】

先 生：グループ発表では、どの部分をお勧めポイント
としますか。

児童A：歌のリズムに合わせた回転技を見てもらいた
いな。

児童B：2方向から同時に演技をしてみよう。

児童C：グループみんなで同時に技を見せたいな。

先 生：今話し合ったことを意識して演技の練習をして
みましょう。

○子供が自ら問いを発見する
○子供が解決の方法を見通す

○ グループで互いに技を教え合う

例：後転の時は、お尻・背中・頭の順番でマットにつ
いて、最後にマットを手で押すといいよ。

○ 苦手な子でも活躍できる演技構成を話し合う

例：みんなができる、だるま転がりや前転を中心に構成
を考えよう。

○ 見ている人が楽しめるよう、空間を意識した演技構
成を考える

例：マットを4枚使って、前方と後方からクロスするよ
うに、前転や後転をしてみよう。歌のサビに入ると
きに、みんなで同時に前転をしよう。

○ 歌に合わせて演技を考えることで、楽しい雰囲気
で学習する

○子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する

先 生：それでは、今日の学習を振り返りながら、今日
考えたこと、次の時間に練習したいこと、演技
に取り入れてみたことなどを話し合ひましょう。

○子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

【児童の毎時間の感想から】

- ・ 友達と話し合って演技を考えるから楽しい。
- ・ 楽しいのに、すごく疲れる。たくさん動ける。
- ・ 音楽があるとやる気が出る。
- ・ 演技を見てもらうから、いいものを創りたい。